

# 今年を「新しい新日鉄グループ」 創造元年に！

新日本製鉄(株) 代表取締役社長 三村 明夫

## 企業価値評価で 世界鉄鋼業ナンバーワンに

皆さん、あけましておめでとうございます。本年も皆様のお役に立てるよう社をあげて取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

今年度の当社グループの連結経常利益は、過去最高の4,950億円を実現できる見通しです。また今年度上期の全国法人申告所得ランキングで、当社が23年ぶりにTOP10入りし、8位となりました。日本経済がようやくデフレ不況の長いトンネルを抜け、着実に景気が回復するなかで、「鉄」の重要性が改めて認識されるとともに、鉄鋼業界としても製造業を中心としたわが国の景気回復に一定の寄与ができたと自負しています。

また、企業全体の価値評価である株式時価総額においても、当社が世界鉄鋼業界でナンバーワンとなるなど、高い評価を受けていることは大変喜ばしいことです。

このような成果を実現できたのは、第1に、事業セグメント会社を含むグループ各社の努力、第2に、製鉄事業における、製造実力向上に向けたさまざまな取り組みが着実に効果をあげたことがあげられます。

## 大きな環境変化を 乗り越える年

本年は、世界鉄鋼業における、次の2つの急激かつ大幅な環境変化に対処し、

これを乗り越えることが大切だと考えています。

一つは、中国鉄鋼業における、特に一般汎用鋼を中心とした過剰能力問題です。私たちとしては今後、この産業政策による業界構造改革の進展の可能性と、マーケットメカニズムによる淘汰の可能性の両方を睨みながら、現在進展している市場二極化の動向を捉え、拡大している高級鋼分野の需要に確実に応えることにより、成果をあげてまいります。

もう一つは、世界的な規模での業界再編の動きが活発化していることです。この業界再編の動きは、当社が、世界鉄鋼業のなかでプレゼンスを確保し、東アジアにおける需要増のメリットを享受するためには、どのような性格の会社になるべきなのか、という新しい課題を提起しています。

そうしたなか、当社は、昨年12月に、本年4月から新たにスタートする中期計画を発表しました。

新しい中期計画においては、平成20年度に向け、技術先進性の拡大と連結経営推進体制の整備・強化を通じて、新日鉄グループにおける各事業セグメントの競争力を再構築することにより「利益成長」を目指すことにしました。これまでの当社の中期計画は、過去6回、18年間、生き残りをかけたぎりぎりのコスト削減・合理化を中心とした計画でした。

もちろんコスト削減は永遠の課題として引き続き取り組むものですが、今回、ようやく将来の利益成長に向けた前向きな中期計画を策定できるようになりました。

## 新日鉄グループのシナジー 最大化を図る

製鉄事業については、以下の3つの課題を解決し、高級鋼を主体とする「総合力世界ナンバーワン」の会社を目指したいと考えています。

第1の課題は、顧客対応力強化による高級鋼を中心とした鉄鋼需要を着実に捕捉することです。

第2の課題は、技術先進性の維持・拡大によるコスト・収益力の強化です。

第3の課題は、鉄鋼製造基盤の強化・再構築です。以上の3点に加え、これまで推進してきた住友金属工業(株)、(株)神戸製鋼所、アルセロール、POSCO等、国内外のパートナーとのアライアンスをさらに深化させ、総合メリットを追求する考えです。

エンジニアリング事業については、需要が回復・拡大している製鉄プラント、環境ビジネス、海洋資源・エネルギー、建設・鋼構造の4事業分野を中心に、複合領域を持つ総合エンジニアリング事業を展開し、社会・産業・都市インフラを支える事業展開を目指します。

都市開発事業については、引き続き事業の選択と集中を行うとともに、街としての価値を創造する「エリア価値創造企業」の実現を目指します。

化学事業については、コールケミカル、化学品、電子材料の中核事業における競争力の強化を徹底します。

新素材事業については、成長が期待できる電子産業分野を中心に、当社の鉄鋼製造技術を応用した画期的な素材・部材を提供する、ニッチではあるが高いシェアを有する「素材・部材」事業の確立を目指します。

システムソリューション事業については、IT技術の進歩により最適システム体系の提案という新しい需要が発生し、企業における設備投資が増加し事業環境が好転するなか、産業分野の業務システムにおける強みを活かし、業界トップレベルの収益性の維持と事業成長を目指します。

## ブランド価値と 企業戦略を共有する 新しい体制に

経済のグローバル化と資本市場を巻き込んだ競争の激化がますます進展するなかで、当社の進歩をより確実なものとするため、今回、連結経営推進体制の整備・強化を実行することにしました。

具体的には、本年7月を目処に、エンジニアリング事業、新素材事業を分社化し、製鉄、エンジニアリング、都市開発、化学、新素材、システムソリューションの6事業セグメントが、新日本製鉄を事業持株会社として、ブランド価値とグループ戦略を共有しながら、並列的・独立的に事業を推進し、利益成長を通じた発展を目指す体制に再構築します。

新日鉄グループのシナジー最大化を図るために、これまで同様、営業や研究等、さまざまな面において、各事業セグメントとの連携を継続・強化するとともに、新日鉄ブランド、新日鉄という名称、社章を共有し、各セグメントが思う存分力を発揮できるような環境を整備することにより、グループ全体の利益成長を目指す考えです。

新日鉄グループとしての企業価値の向上を実現するために、私自身が先頭に立って全力で取り組みます。



## 先進のその先へ、新日鉄

[www.nsc.co.jp](http://www.nsc.co.jp)

### 「社会と共生し 社会から信頼される」 新日鉄グループへ

「社会と共生し、社会から信頼される」ことを目指す当社グループにとって鋼製橋梁問題は、痛恨の極みであり、誠に遺憾です。決して同じ過ちを繰り返さないよう肝に銘じるとともに、引き続き法令遵守を万全なものとするために、徹底的に業務の見直しを行ってまいります。

また、環境保全に最善の努力を払い、安全な職場づくりに取り組むことは、すべてに優先する「経営の大前提」であり、企業の社会的責任を果たし、社会・株主・顧客の皆様から一層信頼される会社を目指したいと思います。

私は社員とともに、新しい「新日鉄グループ」の創造に向け、さまざまな課題の解決に取り組む決意です。

本年が、皆様にとって、健康で幸せな年となるよう祈念し、年頭のご挨拶いたします。